

## 7 取り組むべき施策とその展開

### 7-1 ジオパーク活動への理解と地域への浸透

四国西予ジオパークのテーマ

四国山地と宇和海が育んだ海・里・山 — 4億年の物語

#### (1) 市民に向けたジオパーク理念の理解と浸透

##### 計 画 内 容

ジオパークが目指す将来像を発信し、ジオパーク活動の地域浸透を図る。

##### 1. 現状・課題

市民に「ジオパーク」という言葉は浸透してきたものの、西予市がジオパーク活動に取り組む目的や理念に対してより一層の理解を深めるため、今後も普及啓発に関する取り組みを継続して実施する必要がある。

##### 2. 計画詳細

四国西予ジオパークの目指す将来像やユネスコ世界ジオパークの理念などを様々な媒体によって紹介や解説を行い、多様な市民へのジオパークに対する理解度を高める。当面、広報紙や「だいちのめ」、ホームページ、パンフレット、ガイドブック、学習会や講座などを活用して地域への浸透を図る。

##### 3. 達成目標

■ 情報発信した印刷物や研修の数 年 20 回以上

## 7-2 保全と整備

ジオパークに特化した保全のための国内法規は存在しないため、ジオパーク推進室は、四国西予ジオパーク推進協議会や関係組織、団体と連携を図りながら次に掲げる関連法規等によってサイトごとの保全や整備計画の策定に取り組む。

- ① 自然公園法・自然環境保全法
- ② 海岸法・河川法
- ③ 森林法・農地法
- ④ 他の土地利用関係法令
- ⑤ 文化財保護法、愛媛県文化財保護条例、西予市文化財保護条例
- ⑥ 景観法、西予市景観条例
- ⑦ 生物多様性基本法
- ⑧ 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律
- ⑨ 環境基本法、西予市環境基本条例

また、平成26年度に市が制定した西予市ジオパーク推進支援事業補助金交付要綱において、「ジオパーク内にある地層や岩石を含む自然、文化的景観、文化財など、文化サイトの整備・補修等の保全活動」を補助対象としており、本事業の効果的な運用により地域が主体となった保全・整備活動を積極的に推進する。

八幡浜街道笠置峠越及び伊予遍路道(明石寺境内、大寶寺道)が国史跡に追加指定されている。平成31年2月には、ジオツアーでも活用していた北部宇和海エリアのジオサイト「狩浜の段々畑」が「宇和海狩浜の段畑と農漁村景観」として文化庁から国の重要文化的景観に選定され、本市を含む愛媛県南予の5市町の「愛媛・南予の柑橘農業システム」が「日本農業遺産」として農林水産省から認定された。また文化サイト「笠置峠古墳」は令和4年2月に愛媛県の史跡に指定された。

その他、令和4年3月に策定した「環境基本計画」および同年4月に策定した「西予市西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」に基づき、環境アイコンとなりうる宇和盆地に飛来するツル・コウノトリを始め、希少な動植物についても保護、保全に努め、多様な生態系を維持する。

## (1) サイトの指定

### 計 画 内 容

「四国西予ジオパークにおけるサイト等の定義ならびにその指定等に関する作業指針」を再認定審査の指摘事項に基づき改訂するとともに、その指針に基づきサイトの価値を明らかにし、価値が明らかとなったものはサイトの指定を進める。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオパークでは「四国西予ジオパークにおけるサイト等の定義ならびにその指定等に関する作業指針」に基づき 30 のサイトを指定している。(令和5年6月現在、表3)。

しかしながら、令和3年度の日本ジオパーク再認定審査の結果をまとめた「第44回日本ジオパーク委員会審査結果通知書」の「I 緊急に着手ないし解決すべき課題(おおむね1年以内)」の中で、「サイトの再整備」と「サイトの確定」が必要であると指摘された。

そこで、作業指針の改訂と改訂後の作業指針に基づくサイト区分を明確にする。そのうえで指針に基づき価値が明らかになったものはサイトへの指定を進める。

#### 2. 計画詳細

先述の通知書を鑑みて作業指針を改訂する。改訂にあたっては事務局で改訂案を作成した後、保全部会の中で案について検討を行う。保全部会の検討事項を盛り込んだ作業指針は四国西予ジオパーク推進協議会の総会にて諮り、承諾を得て施行する。

作業指針改訂版の施行後は速やかにサイトの整理(「地質遺産」は「地質・地形サイト」に変更)を行う。その成果はJGN事務局ならびに令和3年度再認定審査に携わった現地調査員にも共有する。その後は、文化サイトを中心として指針に基づき価値が明らかになったものについてサイトへの指定を進める。サイトの指定に関しては研究者やNPO法人等を含んだ専門家等から意見を受け、指定の質及び透明性を維持していく。

### 3. 達成目標

- サイトの登録数の増加（種別変更も含む）

表3. サイト等リスト(R5.6 現在)

エリア	No.	名称	種別
北部宇和海エリア	R1	須崎海岸	地質サイト
	R2	嶋山の姫塚	文化サイト
	R3	宇和海狩浜の段畑と農漁村景観	文化サイト
	R4	俵津のしましま地層	地質サイト
	R5	蔵貫白石鍾乳洞と石灰岩	地質サイト
肱川上流エリア	V1	卯之町の町並み	文化サイト
	V2	名水百選・観音水	地質サイト
	V3	桂川渓谷	生態サイト
	V4	大和田橋付近のかめ穴	地質サイト
	V5	野村の河成段丘	地質サイト
	V6	ナルタキ古墳群	文化サイト
	V7	笠置峠古墳	文化サイト
	V8	笠置街道(八幡浜街道笠置峠越え)	文化サイト
	V9	ツル・コウトリ飛来地	生態サイト
黒瀬川エリア	G1	下相のジュラ紀化石の露頭 (旧名称: 下相の海底地すべり跡)	地質サイト
	G2	寺野変成岩露頭	地質サイト
	G3	三滝渓谷	地質サイト
	G4	穴神鍾乳洞	地質サイト
	G5	中津川のトウファ	地質サイト
	G6	魚成の河成段丘	地質サイト
	G7	田穂の石灰岩	地質サイト
	G8	棚田百選・堂の坂の棚田	文化サイト
	G9	嘉喜尾の黒瀬川ロード	地質サイト
四国カルストエリア	K1	ブナの原生林	生態サイト
	K2	源氏ヶ駄場	地質サイト
	K3	寺山の枕状溶岩	地質サイト
	K4	寺山ポリエ	地質サイト
	K5	小松が池	地質サイト
	K6	日本百名洞・羅漢穴	地質サイト
	K7	惣川の地すべり地形と土居家	地質サイト

## (2) サイトに関する保全・活用リストの作成

### 計 画 内 容

各サイトの基本情報を整理したうえで、サイト等の保全や活用を進めるためのリストを作成する。

#### 1. 現状・課題

ジオパーク全域及び各サイトについての基本情報を整理し、保全計画を策定し、計画に基づき保全や活用を行う仕組みが必要である。保全計画の策定にあたっては先の第2次四国西予ジオパーク推進計画において前段階となるサイトリスト及びカルテの作成を進めていたので、まずその作業を完了させ、続いて保全計画の策定に移る。

#### 2. 計画詳細

各サイトにおいては、科学的価値等の根拠や自然環境、法令等の有無、利害関係者の状況などを考慮した保全計画が必要であり、それらに基づいた方法での保全が必要である。

サイトの基本情報を整理し、関係者による定期的なメンテナンスとモニタリング、サイト存続の危険性などが生じた場合の対応策等を具体化することによって持続的な保全と活用につなげる。

#### 3. 達成目標

- 保全リストの作成完了 令和5年度内
- 保全計画の策定 令和6年度内

### (3) サイトの維持管理

#### 計 画 内 容

市民や地域組織、ジオガイド団体等と連携して各サイトの保全を図る。

#### 1. 現状・課題

エリア内の多くのサイトでは十分な点検を実施できておらず適切な維持管理が行われているとは言い難い上、平成30年7月豪雨災害で被災しているサイトも複数ある。

#### 2. 計画詳細

サイトの保全計画に基づき、ジオパーク推進室や経済振興課、各支所産業建設課、市民、地域づくり団体、ジオガイド等が連携して定期的な点検(モニタリング)を行うことで、必要に応じた改善策を講じるとともに、組織的に行うボランティア活動を推進し各サイトの保全を図る。また、被災したサイトや危険箇所、老朽化した設備等への対応は早急に行い、適切な維持管理に努める。

#### 3. 達成目標

##### ■ サイトの保全

清掃活動等が定期的に行われているサイトの増加数 年2ヶ所

##### ■ 定期点検の回数 年2回以上

##### ■ 保全計画に基づいたサイト保全の開始 令和7年度内

## (4) 来訪者への安全対策

### 計 画 内 容

サイトを安心・安全に見学できる環境整備を進めるとともにガイド等への防災研修を強化する。

#### 1. 現状・課題

サイトの中には遊歩道や安全柵の老朽化により補修・改修が必要な箇所が認められる。特に須崎海岸の遊歩道は令和2年7月の斜面崩落によって、桂川溪谷の第2キャンプ場より奥のエリアは平成30年7月豪雨の被害によって依然として立入りできない状況が続いている。他にも、崩れやすい性質を持った露頭がジオサイトとなっていることによる落石の危険、その他のサイトにおいても転落、滑落、落水、転倒など、見学する際に利用者が被りうる多くのリスクが想定される。

さらに、今後当地域においては近い将来に南海トラフ地震の発生が予想されていることから、サイト見学中の自然災害への対策も急ぐ必要がある。

#### 2. 計画詳細

須崎海岸と桂川溪谷の復旧に関して、ジオパーク推進室と関係部署が連携して、状況をモニタリングしながら今後の復旧を検討していく。

各サイトについては遊歩道や安全柵の補修・改修、安全具の貸出、ピクトグラムを用いた注意喚起を行うことで、安心・安全に歩いて回れる環境を整備する。想定されるリスク情報については、ホームページや看板等において情報公開し利用者への注意喚起に努める。また、大規模災害時における来訪者の円滑な避難誘導を図るために、多様な手段による防災情報の的確な発信を行っていく。



須崎海岸遊歩道

さらに、市民が主体となった継続的な安全対策を推進するために、ジオガイド

等への防災学習を行い、安全対策を強化する。

※1) 何らかの情報や注意を示すために表示される視覚記号（サイン）の一つ。

### 3. 達成目標

■ ジオガイド等への防災学習の実施 年1回以上

## (5) どんぶり館などにおける情報発信

### 計 画 内 容

四国西予ジオパークのビジターセンターとして位置付けている「道の駅どんぶり館」、および「ゆるりあん」、そしてビジターセンターと位置付けていないものの、西予市図書交流館「まなびあん」、「ゆめちゃんこ」に設置しているジオパークの展示を維持管理し、広大な西予市のどの場所においても多くの方がジオパークの情報を収集できるように務める。

### 1. 現状・課題

道の駅どんぶり館の一角に展示施設を設置し、ビジターセンターとして位置付けている。令和2年4月に西予市役所横に西予市 JR 卯之町駅前複合施設「ゆるりあん」がオープンし、一角に観光・ジオ PR スペースが設けられており、こちらもビジターセンターに位置づけている。また西予市図書交流館「まなびあん」、「ゆめちゃんこ」にも小規模ながらジオパークを紹介する展示が設けられている。市内に広がる各サイトの紹介を多面的に行う必要があり、これらの展示を維持管理し、拠点施設であるジオミュージアムへ行かずとも、多くの方がジオパークの情報を収集できるようにする必要がある。

### 2. 計画詳細

ビジターセンターでは、四国西予ジオパークの研究調査情報や季節ごとの自然情報などの定期的な更新を行い、来訪者が満足できるような機能の充実を図る。情報の取得により、そこから各ジオサイトを巡ることが出来るよう整備を進める。

また、施設の従業員等が来訪者からの質問に対応し、簡単な案内を行うことが

できるよう、施設と連携して従業員向けのジオパーク研修、もしくは事務局からアドバイスをを行う機会を設ける。



道の駅「どんぶり館」



「どんぶり館」ジオパーク展示室



卯之町駅前複合施設「ゆるりあん」



「ゆるりあん」ジオパーク展示室

### 3. 達成目標

- 情報更新回数 年1回以上
- 従業員向けのジオパーク研修の実施件数 年1回以上

## (6) 誘導・解説用看板の整備

### 計 画 内 容

四国西予ジオパーク内に、誘導や解説用看板を体系的に整備することを目的として策定したブランディング戦略やサイン計画に基づき、計画的に看板類の拡充を図り、既存の看板を適宜更新する。

### 1. 現状・課題

第1次および第2次推進計画の中で西予市内における国道や県道等の幹線道路には四国西予ジオパークに関する案内標識や解説看板を多く整備してきたが、一部の場所では案内標識や解説看板を必要としている。またこれまでの計画下で設置してきた案内標識や解説看板の中にも更新を必要とする場合がある。

### 2. 計画詳細

ジオパーク推進室は、市民や来訪者が目的地に安全かつ円滑に移動出来るよう、その情報伝達手段となる誘導標識や解説板などに関して、平成27年12月に作成した四国西予ジオパークサイン計画に基づきながら引き続き看板整備を行う。解説板の掲示内容については、専門用語を極力避けて、図や写真を効果的に使用した内容となるように作成する。また、看板の内容検討にあたっては多言語対応やQRコードの配置といった更新に際して軽微な修正で対応できるような拡張性のある内容やレイアウトとなるように配慮する。



誘導標識



解説板

### 3. 達成目標

- 整備した解説板の枚数 年2ヶ所以上
- 整備した誘導標識の枚数 年2ヶ所以上

## 7-3 四国西予ジオミュージアムの活用

令和4年4月 23 日に城川町下相に四国西予ジオミュージアムが開館した。当館は前身となる城川地質館の収蔵展示の機能と、総合センターしろかわの集会機能を兼ね備えた複合施設であり、認定前及び再認定時に日本ジオパーク委員会からも整備の必要性を指摘されていた「四国西予ジオパークの拠点施設」と位置付けている。

当館は西予市が掲げる「ジオパークを通じて地域の魅力を再発見し、地域に対する郷土愛を育むとともに、経済への好循環を目指した持続的な取り組み」の中核を成す拠点施設として建設した。来館者に四国西予ジオパークを学んでいただくことはもちろん、展示で四国西予ジオパークを紹介するほか、各サイトをつなぐハブ機能を持たせ、サイトへの回遊を促進する。当館を活用することで、小・中・高等学校などでも効果的な学習を図ることができる。併せて、四国西予ジオパークに関する調査や研究の成果を、学習会や企画展示を通じて市民や来訪者にわかりやすく情報発信していく。

### **施設概要**

施設名称 四国西予ジオミュージアム

所在地 〒797-1717 愛媛県西予市城川町下相 945 番地

建築面積 1,315.73 m<sup>2</sup>

延べ床面積 1,102.20 m<sup>2</sup>

総工費 807,333,600 円

施設の機能 西予ギャラリー回廊／四国西予ジオパークに関する常設展示「西予ジオミュージアム」(一般 500 円、大学生・高校生 300 円、中学生以下 無料)／多目的ホール「ジオカフェ」／企画展示室／研修室／屋外展示エリア／事務室／受付／ジオショップ

開館時間 午前 9 時～午後 5 時

問合せ先 電話番号 0894-89-4028 FAX 番号 0894-89-3400



四国西予ジオミュージアム外観



ジオカフェ



常設展示室「西予ジオミュージズ」



西予ギャラリー回廊



企画展示室1・2

当館の運営は西予市が「四国西予ジオミュージアム管理運営計画」のもと、運営や活動を進めていく。

## (1) 展示内容の改善および更新

### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内に常設される展示内容の改善や更新を随時行い、内容の充実を図る。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオミュージアム内に常設される展示として、西予ギャラリー回廊、多目的ホール「ジオカフェ」、常設展示室「西予ジオミュージズ」があるが、多方面からの意見やアドバイスを取り入れながら、興味を引き、わかりやすい説明文やイラストなどの作成や追加が必要である。

#### 2. 計画詳細

常設される展示内容の改善および更新にあたっては、市民や学術アドバイザー等の協力を得ながら内容の充実を図る。「西予ジオミュージズ」および「ジオカフェ」は、地域の自然や文化に関わる情報について定期的な更新を行う。中でもスマートフォン用のアプリ「ジオクエスト」については内容の更新のみならず活用方法について、広く意見を取り入れながら進めていく。「西予ギャラリー回廊」などを活用して、そこから各ジオサイトや市内の関連施設への興味関心を引くことが出来るよう整備を進める。

また、常設展示室を中心に、地震や火山噴火、気象災害などが多い日本列島の特徴などを地球科学的な視点で学ぶことができるパネル等の整備を行い、ジオパーク学習や防災学習にも対応できるような施設にする。

#### 3. 達成目標

- 各展示物およびコンテンツの改善 年1回以上

## (2) 企画展の定期開催

### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内の企画展示室では、自主企画展に加え、他機関や団体と連携した企画展を定期的で開催し、新しい情報を発信することで話題性や集客力を高める。

### 1. 現状・課題

令和4年度の四国西予ジオミュージアムの来館者数は約3万8千人となり、ジオパークの拠点施設として情報収集や発信の場所として定着しつつある。

令和4年の8月、9月には、東宇和自然史研究会や愛媛昆虫類調査機構、愛媛大学等の協力を得て「ジオと昆虫展」を実施した。

### 2. 計画詳細

企画展示については、地球遺産の価値を楽しみながら学んでもらうことで、保全する世論を高めることを目的の中心に据えて実施する。人間が育んできた文化の多様性は、生物多様性にに基づき、さらに、文化多様性や生物多様性は、地質・地形の多様性（ジオ多様性）に基づいていることができるような企画展をコンセプトに実施する。

### 3. 達成目標

- 企画展示の実施 年1回以上

### (3) 市民や団体と連携した展示やイベントの拡充

#### 計 画 内 容

四国西予ジオミュージアム内で行われる展示やイベント、学習会に、適宜市民や団体等にも関わってもらい、地域のために活動する施設としての一体感を高め、また地域の情報を市内外に発信していく。

#### 1. 現状・課題

西予市では令和5年度から公民館が地域づくり活動センターに移行し、これまで以上に柔軟な住民自治と行政との連携や魅力ある地域づくりが展開されることになった。地域づくり活動組織の中にはジオパークのサイトを有する地域が多くあり、展示やイベントを通じて地域情報を発信していく事で、地域貢献度を高めていく必要がある。

令和4年度秋には日本洞窟学会第48回大会を四国西予ジオミュージアムで開催した。実施に当たっては地域組織である川津南やっちみる会の協力のもと、円滑な学会運営を実行することができた。各地の洞窟学研究者に対して、川津南地区ひいては西予市の洞窟学的な価値をアピールすることができ、今後の関係人口の増加に維持向上に貢献できたと考えられる。このような地域貢献につながる取り組みを今後も継続して実施していく。

#### 2. 計画詳細

展示については、市民や地域づくり組織を含む団体等の協力を得ながら地域の自然や文化に関わる展示を適宜行う。とりわけサイトに関する新しい成果が得られた際には、公開できる内容については積極的に展示を行い情報発信していく。イベント・学習会については、市民や地域づくり組織を含む団体等の協力を得ながら、地域の理解を深めることができるものを企画する。

#### 3. 達成目標

■企画展示の実施及びイベント・学習会の実施 年2回以上

## (4) 団体利用の促進

### 計 画 内 容

市内外の団体による利用件数の増大に努め、繰り返し訪れて楽しめる施設としての認知度を高めていく。

#### 1. 現状・課題

一般に博物館施設の来館者数は、開館年をピークとして次第に減少し横ばいもしくは下降の一途を辿ることが知られており、四国西予ジオミュージアムの来館者数も将来的には減少することが予想される。来館者数の維持および増加には展示内容の更新や魅力ある企画の実施が不可欠で、様々な団体に向けて見学利用や会場利用を呼び込む努力も必要である。

#### 2. 計画詳細

四国西予ジオミュージアムの展示内容は、広大な西予市の各地域における地形・地理・文化の特色を一望できることが強みの一つである。西予市が有するジオ多様性の紹介は、市外に住む人たちにとっても自分たちの地域を再発見するきっかけにもなると思われ、そのため学校の授業における利用のみならず、西予市内外の一般団体や組織研修の一環としての利用も見込むことができる。また令和5年度からはギャラリーしろかわ、城川歴史民俗資料館との共通券を導入し、研修や旅行の一環として当館を利活用してもらえる環境を整える。

#### 3. 達成目標

- 団体見学の受け入れ回数 年 100 回以上

## (5) 受け入れ態勢の強化

### 計 画 内 容

外国人観光客や障がい者等の様々な立場の方にも利用しやすい施設であるために、施設の改善や職員の接客対応能力の向上につながる研修機会を設ける。

#### 1. 現状・課題

四国西予ジオミュージアムの展示は、スマートフォン向けアプリ内のコンテンツとして展示パネルの文章の英語表記や英語の音声再生機能がある。また敷地内の段差を極力なくし、車いすの方の見学も容易な施設設計を行った。触ることのできる露出展示物もいくつか常設し、視覚障がい者を含めた多くの方にハンズオン体験ができるような展示の工夫も行っている。

こうしたインバウンド対応、障がい者等の受け入れが可能な施設機能を持ちつつも、職員については受け入れにあたっての対応に不十分な面がある。そのため対応能力を高める各研修を受けながら、受け入れの促進に取り組む必要がある。

#### 2. 計画詳細

現場での実践に役立つ、インバウンド対応、障がい者対応の各種研修会を受けつつ、令和5年度以降からモニターツアーも含めた受け入れの実施を図る。受け入れ実施にあたっては西予市観光物産協会や宇和特別支援学校等とも連携しながら進めていく。

#### 3. 達成目標

- インバウンド対応および障がい者対応の研修を実施 年1回以上
- 外国人観光客および障がい者の団体見学を誘致 年1回以上